

豊田佐吉の凄さ

愛知県刈谷市で東海北陸地方の都市の教育長が集まる研修会に参加しました。最終日（二日目）に刈谷市の社会教育の施設を見学しました。感銘を受けたのは豊田自動織機ショールームでした。この施設は、トヨタの創業者豊田佐吉氏のものづくりの足跡がわかる資料館です。1890年（明治23年）の豊田式木製人力織機に始まり、1924年（大正13年）の豊田自動織機G型までの開発の苦労が一目で分かりました。現在のエアージェット織機やウォータージェット織機につながる歴史が理解できました。これらの機械の特許料がトヨタ自動車の製品開発（技術革新）の原資となりました。ひたむきな研究心。次代の先端を走る創造力。トヨタの社是（会社の基本的な考え方）となっている「研究と創造」「質実剛健」「友愛、家族的美風」「報恩感謝」は、この織機の開発から生まれたことがよく分かりました。このショールームの見学をお勧めします。豊田佐吉の伝記を読んでみて下さい。

安城市の図書館の研究発表をうかがいました。図書館情報館をまちづくりの中心に位置づけた発表でした。安城高等女学校で先生をしていた新美南吉がランドマークとなっています。南吉ストリートがつくられ、ベンチや窓、ウォールペイントなどがあります。

私はふと中学生1年生の時に学習した「牛をつないだ樁の木」を思い出しました。いつも牛は散歩をするとその辺りでのどがかわき、水をほしがります。ある時、牛はつながれた樁の芽を食べてしまい、樁の持ち主の地主に主人公は怒られます。そこで主人公は牛のために井戸を掘ることを思いつき、夜に駄菓子を食べることをやめ、お金をためます。はじめは地主が死ねば井戸を掘らしてもらえると恐ろしいことを考えますが、人の死を望んだことは間違いだということに気づきます。地主と心から和解をし、井戸を掘ることが許されます。主人公は日露戦争に行き、亡くなってしまいますが、井戸は残り、彼が残した井戸掘りはいつまでも語られることになったという話です。私たちの人生、私たちの仕事について考えさせられる物語です。

南吉の俳句です。

たんぽぽのいく日ふまれてけふの花
石何年苔蒸し清水しみわたり
冬ばれや大丸煎餅屋根に干す

半田市や安城市の新美南吉の記念館をぜひ訪ねてほしいと思いました。

令和6年5月8日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視